

第375回放送番組審議会

1 日 時 2017年5月16日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 五大路子委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、伊藤有壱委員、吉川知恵子委員
tvk;押川取締役、熊谷コンテンツ局長、重富プロデューサー、近藤編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①5月のタイムテーブル

②5月～6月の特番一覧表

(2)視聴合評

『キンシオ～秦野市』

2017年5月1日(月)23時～23時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017年4月15日(土)～2017年5月12日(金)

・第374回(4月)放送番組審議会の議事報告

(「猫ひたプラス」2017年5月12日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1)2017年6月9日(金)「猫ひたプラス」(12:00～12:15)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長 五大先生がまだですが、定刻になりましたので第375回テレビ神奈川放送番組審議会を始めさせていただきます。本日、社長の中村は所用がありまして欠席となります。申し訳ございません。それでは、よろしくお願いいたします。

山田委員長 それでは始めさせていただきます。プロ野球の公式戦が始まってそろそろ2ヶ月になろうとしています。地元の横浜 DeNA ベイスターズは健闘はしているんですが、なかなか勝率の5割の壁を崩すことができなくて、今日から広島戦ですので、広島には4勝2敗で勝っておりますので、今日あたりからは期待をできるかなと。それでは第375回目の番組審議会を始めさせていただきます。押川取締役の方からお願いいたします。

押川取締役 先ほど近藤からも申し上げましたが、中村は明日から神戸で全日本広告連盟の大会で、先だって今日の会議に出席のため、今日は欠席とさせていただきます。今プロ野球シーズンのお話が委員長からございましたが、ナイター中継をはじめとして、4月から新番組を始めさせていただいたり、またこれまでのレギュラー番組、合評をいただいてご意見をいただいた番組等も含めてリニューアルしたいということで、新年度をスタートしています。ひと月経ちましたので、改めて視聴者の皆様方に支持をしていただけるよう、さらに制作に携わる者、またそれに関わる人間たちも、一生懸命取り組んでまいりますので、またこれからもご意見をたくさんいただいてまいりたいと思います。併せて今日の審議もよろしくお願いいたします。

山田委員長 ありがとうございます。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず放送番組について。お手元の5月のタイムテーブル、あるいは5月6月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたします。

近藤編成部長

それでは5月のタイムテーブル。表は「吉田山田のドレミファイル」。この4月に「吉田山田のオンガク開放区」という番組からリニューアルして、改めて吉田山田さんたちに番組をお任せしています。裏表紙にいて、3月にご案内させていただきましたが、「猫のひたいほどワイド」の、関内ホールでのイベントの様です。この日は2回公演で、大体1回1,000人の方がいらっしゃいました。電通の方々も「1年目にして、これだけの集客能力がある番組もなかなかないね」というお褒めの言葉をいただきました。めぐりまして、「ヤルジャン！45」。今年4月1日でテレビ神奈川は開局45周年になりました。社内から公募したキャッチコピー、「ヤルジャン！45」でこの1年間いろんな番組やイベントなどで使っていきたいと思います。左の方が山下町にございました旧社屋で、このときは首都高がなく、川がよく見える状態ですし、マリンタワーと氷川丸ぐらいしか、今はもうないのかなという。これが1972年当時のtvkの社屋です。右側は現在のこちら、メディアビジネスセンターです。対比して45年間、これからも開局50周年、100周年に向けて「ヤルジャン！45」で、こちら一面を使って表現させていただきました。その下になりますが、今年も5月27日28日に、「秋じゃないけど収穫祭」を行います。伊藤先生もやられている緑化フェアがございまして、日本大通りは半分しか使えないということで、横浜公園と日本大通りということで、例年とは違ったスペースで収穫祭を行います。スペースは、関内からすぐ入ったところにステージをセッティングしまして、そこから日本大通りの方へという形になっていますし、緑化フェアもありますし、非常に日本大通りはきれいになっているので、是非お時間がありましたら来ていただければと思います。こちらは先生からも「もうちょっと頑張ってもらいたい」というベ이스ターズです。これは終わってしまいましたが、「ザよこはまパレード」でございまして。めぐってタイムテーブル、さらにめぐって、左上は「デリバリ

ーお姉さん NEO」。こちらはtvkとGYAO、モノポライズという事務所さんの三社共同制作、製作委員会もののドラマになっています。「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」「Up To Date」、「猫のひたいほどワイド」。「猫のひたいほどワイド」は4月から「猫の手も借り隊」の新メンバーでこの3人が加わっております。その後「音楽の源流」、5月3日ですが、これは三重テレビさんが毎月1本作っている番組で、これは購入です。「岐阜にイジュー！」。これは名古屋テレビさん、メ〜テレさんが作っているものの購入になります。「関内デビル」その隣に「咲」という番組がありますが、「関内デビル」に出演している加村真美さんが出演しているということで、MBSさんから購入させていただきオンエアしています。本日視聴合評をいただく「キンシオ」ですが、先日「キンシオ the DVD 20号を行く」を発売いたしまして、好評を博しております。後ほど視聴合評をよろしく願いいたします。「川崎競馬中継」、「主催・後援」等を配しております。タイムテーブルは以上です。続きまして5月6月の特別番組一覧をご覧ください。5月26日「TSUKEMEN」これは前回もご紹介させていただきましたが、7月29日に神奈川県立音楽堂でTSUKEMENというアーティストさんの公演がございます。チケット販売をtvkコミュニケーションズがやっていますので、販促の一環として特番をさせていただきます。「トモダチゲーム」、こちらは4月で終了してしまいましたが、製作委員会ものです。こちらが6月3日より劇場公開されるということで、こちらの方であおりとしてオンエアさせていただきます。6月4日日曜日「Jリーグ中継 横浜F・マリノス対川崎フロンターレ」。神奈川ダービーを調べてみましたが、2007年の5月3日以来と、約10年ぶりに神奈川ダービーを放送いたします。前年度3月の横浜マリノス戦中継に引き続き、2回目のJリーグ中継になります。こちらは改めてご説明させていただきますが、「Jリーグ中継」は今まで全然やれていなか

ったのに、なぜこれだけかという、ダ・ゾーンさんがJリーグ中継を全試合購入して、ダ・ゾーンさんが制作されているものを私どもが購入して放送するという形で、中継車等々を使わずに映像を購入して放送できるという、そういう仕組みができましたので、その昔の制作費よりは抑えてできるという現状になっています。そういう利点がありましたので、「Jリーグ中継」は今年2回目です。この後もあと2試合ほどやりたいと考えておりますが、試合日程もございますので。6月17日「横浜市会ダイジェスト」、こちらは第2回定例会をダイジェストでお送りします。再放送は6月20日です。また6月12日から私どもで視聴率週間という、視聴率を調査する週間になります。大体関東企業さんですと、VRという機械式になりますけれど、tvkでは日記式という形で、神奈川県内350サンプルの方にアンケートを置いて、「どれを見ましたか」という調査案内を年2回実施しています。6月12日から18日の一週間になりますので、その期間にいろいろな特番を編成しようと考えまして、ご覧のようになっています。まずは6月17日時代劇スペシャル「着ながし奉行」。原作は山本周五郎さんで、主演は仲代達也さん。その後6月18日は「市民コーラスと小椋佳の集い」。これは視聴率週間というわけではないんですが、もともとかながわ信用金庫さんのコンサートでイベントを行っていて、それを収録して放送します。5月27日によこすか芸術劇場で行われるイベントの様です。6月18日「ザよこはまパレードダイジェスト」は、5月2日のダイジェストですが、毎年視聴率週間には「よこはまパレードダイジェスト」を編成していますが、やはり数字がとれるということで、ここに編成しています。また6月18日に時代劇スペシャルということで、「七衛門の首」。こちらの主演はウッチャンナンチャンの南原さん。6月18日の「映画の時間」は、「時代屋の女房」です。渡瀬恒彦さんが亡くなられたということで、それを追悼しての企画です。今、視

聴率調査をとると、15時に放送しています「鬼平犯科帳」の数字が良いもの
ですから、時代劇をやってどんな数字がとれるかなということで、この週一週
間は時代劇を編成しています。その後18日は「三浦市長選開票速報」、こち
らは現職・新人が出ていますので、選挙はございますので、5分の速報をお
送ります。6月24日「JA共済杯 神奈川県女子学童選抜野球大会」。こち
らもは今年から新たな取り組みとなっていて、先週から行われている大会
の模様を決勝を中心としてお送りする予定です。6月25日日曜日、「横須賀
市長選開票速報」です。こちらも現職・新人が出ていますので、選挙がありま
すので、開票速報を実施したいと思っています。また、次回の番組審議会に
なりますが、7月ということで、次は高校野球シーズンで、7月8日から神奈川
大会が始まります。7月29日が決勝です。詳しいことに関しては、また来月の
放送番組審議会でご報告させていただきたいと思います。よろしくお願いい
たします。以上になります。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から5月のタイムテーブル、5月6月の特番一
覧表について説明がございましたが、これについて何かご意見、ご質問等が
ございましたら。

二宮委員 1点よろしいでしょうか。視聴率週間で、350サンプルは県内になりますか。

近藤編成部長 県内の横浜市、川崎市、茅ヶ崎市、相模原市、横須賀市、海老名市の6自
治体のところでサンプルを取らせていただきます。

二宮委員 それはどういふ。

近藤編成部長 それは詳しいところは。調査会社がサンプルということで指定してきていま
す。

二宮委員 日記形式のアンケートですが、その方がtvkで見た番組のことを。

近藤編成部長 tvkのものとすべて全局のものがアンケートにあるので、その中で「今、日本

テレビさん見た」「tvk見た」とチェックしていきます。

二宮委員 そうすると、時間帯でここが瞬間的に上がったというのはいないんですね。

近藤編成部長 5分単位でのアンケートになっていますので、一応瞬間的というものは出ますが、ビデオリサーチさんのように、毎分ということは難しいですね。後はまた日記式ということで、ある程度平均化されちゃうのかなというのが、欠点かなと思います。

二宮委員 それをビデオリサーチ形式にする予定はあるんですか。

近藤編成部長 ビデオリサーチさんの機械式なんですけど、あれは関東で900サンプルでやっと出て来る数字なので。それを神奈川県で実現するとすると、機械式を神奈川県に置いてもらわないとできないんですね。それを多分実施するとウン千万から億という数字になると思うので。ビデオリサーチさんの数字にはなかなかならないんですが、今テレビ自体がインターネットと結線されていますので、いろいろな調査方法を各局さんが試されている状況のようです。なので、今後いろいろな調査方法が出てきたら検討してみたいと思います。ビデオリサーチさんは視聴率調査をするときに何をみているかという、音声情報でとっているんですね。それで、ビデオをみている、「ここで何をみている」というのをやっているらしいので、いろいろな家の機器が繋がっていけばいくほど、いろいろな調査ができるのかなと考えています。

二宮委員 その調査週間は年に1回ですか。

近藤編成部長 年2回です。次が12月で大体、大学ラグビーの早明戦が12月第1週にありますので、そこに合わせて下期に調査をしています。

二宮委員 はい、わかりました。

山田委員長 5月の番組表と5月6月の特別番組について、他にございませんか。ないようでしたら、2番目の視聴合評に移りたいと思います。

近藤編成部長

本日は今までも何回か視聴合評していただいている「キンシオ」になります。プロデューサーの重富と、コンテンツ局長の熊谷が同席しております。それではよろしくをお願いします。

視 聴 合 評

山田委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴する前に、この「キンシオ」は以前も番組審議会で取り上げたことがあります。改めて番組制作を担当されましたプロデューサーの重富さんの方から、番組のコンセプトなどをご説明いただければと思います。

重富プロデューサー

プロデューサーの重富です。よろしくをお願いします。この番組は2010年の1月にスタートしまして、今年で7年目です。今放送しているのは「食べものの地名の旅」というものです。今まで「あいうえおの旅」とか「123の旅」とか、テーマを決めてその名前のくくりで、その地名に行って旅をする形でやってきました。基本的にはテーマはどうであれ、旅のスタイルはそんなに変わってなくて、基本的にはイラストレーターのキン・シオタニさんが旅をする。それを視聴者が見て、一緒に旅をする気分で見させていただく形になっています。番組が始まった当初から、もともとそんなに予算がない番組で、スタッフもそんなにいない、僕だけなんです。自分でカメラを持ってキンさんを撮って。ほぼ二人ですね、ずっと二人で歩いていて、それを撮って編集をして。技術さんもないので、自分で音声もやって、暗いところに入ったら照明もやってと、一人で全部やっているという形で完結しています。なので街中でよく大学生が卒業制作で撮っているんですが、そっちの方が規模がでかくて。僕はマンツーマンで動いていますので、非常に小さい規模でやっているのです。逆にそういう規模を逆手にとって、ありのままの姿を見せようということで始めています。テレビのセオリーとして、出演者に「これをやれ」とか、こういう仕込をし

て、「ここでこういうことをしゃべってくれ」とか「こういう感想を言ってくれ」ということはしていません。基本的にはキン・シオタニさんを野放しにして、もちろんテレビ的に撮影がダメなところは入れないというところは言いますが、後は旅のスタイルや旅の生き様は、そのままもうやりたい放題をやらせてもらう。で、やらせてもらったものをこちらで料理するというスタイルをとっています。そういった形を受けてきて、アポなし番組って最近流行っていますが、この番組は7年前から既にやっています。ワンカメでアポなしでいくというスタイルは、当時はあまりなかったんですが、他の局のスタッフとか、キー局のディレクターとかと話をすると、やはりこの番組を見ているディレクターが多くて。「この番組を参考にしました」ということも意見でいただいたりということもあるので。そういう意味では、さきがけでいろいろできたのかなと思います。おかげさまで7年続けさせていただいて、番組の人気も高まってきて、イベントをやると、多いときは1,000人ぐらいを集客します。もちろんキン・シオタニさんの人気もあるんですが。DVDはもう4枚出しておりまして、4月末に出した第4弾の「国道20号」、日本橋の起点から長野県の終点まで行くというのを1枚出したのですが、これがアマゾンのジャンルのランキングで1位をとりました。それだけユーザーというか、人気が高まっていて、まだ継続しているのかなと実感しています。なので、本当によくありがちな観光スポットに行って、グルメライターみたいな感想を言って、その街の見どころを紹介するという形ではなくて、観光スポットは他の番組に任せて、この番組はキン・シオタニさんの独自の目線で、感じたところに行って、感じたことをしてもらう。その行ったところが、視聴者にとっては観光地になるというスタイルで進めています。そういう形で放送している番組でございます。

山田委員長

ありがとうございました。今の秦野の撮影はいつ頃ですか。今年の3月ごろで

すか。

重富プロデューサー そうですね、4月の頭とか。

山田委員長 4月の頭でしたか。時間帯は何時頃ですか。

重富プロデューサー ロケが大体11時からスタートして大体4時5時ぐらい、日没前ぐらいで終わります。

山田委員長 はい、わかりました。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思います。まず伊藤さんからお願いします。

伊藤委員 はい。何度か見せていただいた番組として、いつもの、手慣れた空気は感じはしました。ちょっと見ていて季節的にやはり5月1日放送でしたか、風景が結構グレイッシュで、枯れ野原な感じが満載だったので。いつ撮ったのかなという気持ちと、絵的にずいぶんさびしいな、という印象で見えていました。どこが面白いのかなという部分も、ぶらり系の番組もずいぶんありますので、探りながら見ていましたが、ちょっとなかなか魅力が見つけないというのが、正直な感想でした。キンシオさんの人気も含めてだいぶ長らく続いています、こういったスタイルが。人気は上昇とありましたが、果たしてこれが視聴率とかそういったところで、上昇という部分にちゃんとつながっているのかどうか、もう少しきちんと実は。人気の秘密を教えてくださいというのが、今回の質問事項としてございます。あと、ちょっと思ったのは、テロップの位置が、キンシオさんの言葉はしっかりとらえているんですが、畑のおじさんの声とか聞こえにくい声をテロップで、わりとランダムな位置にポンポンと投げ込むのは面白いなと思いました。なんかもうひとつできるんじゃないかな、という気持ちがいつもそこに乗ってきまして。キンシオさん、最初に見たときは、絵に工夫がある、アイディアがある、完成している中で、もしくは描いた絵を逆回転していく中で、見る人をはっと思わせる仕掛けでありエンタテインがあるとうところで、

「おっ」と思ったんですが、今回は絵に関しては、そういうところがなかったの
で、「あれ？」という気持ちが正直ありました。たとえば犬が何かをしゃべって
いるような吹き出しが何回か出てきましたが、そういうおじさんとかおばちゃん
のナレーションを、もしテロップで入れるとしたら、テロップのベースみたいな
部分で、キン・シオタニさんが描いた吹き出しが何種類かあって、そういうもの
を使ったりすると、キン・シオタニさんの世界がより出るのかなと思いつながり見
ていました。ちょっと見ているうちに「魅力はどこだろう」と思っているうちに終わった
というのが正直な印象でした。以上です。

山田委員長

いくつか質問が出ましたけど、これはたとえばこの番組がどこに魅力があるの
かということで、今伊藤さんから問いかけがありましたが、重複する質問が出
るかと思しますので、これは最後にまとめて重富さんの方からお話していた
だけだと思いますので、よろしくお願いします。

林委員

重富さんから、予算もないけど、仕込みもしない、段取りもしないとおっしゃっ
ていたんですが、それでよくわかったんですが、この番組はゆるいですよ。ね。
私は「ゆるい」という言葉はあまり使わないんですが、これは元々番組の狙い
とかを正面切って扱ったり、聞いたりするのは野暮だというような感じの番組
なんだと受けとめました。「やりたい放題」と重富さんがおっしゃっていたけど、
ほぼ何もしていないような気がします。それがやりたい放題なのかもしれない
けど。たとえば山に行って何かするわけではないし、東海大学の前に行っ
ても大学の連中に何かを聞くわけでもないし、「気がかりな店が多いね」といっ
ても、そこを訪ねるわけでもないし。鶴巻温泉の「陣屋」という有名な旅館に
行っても、それについて何か説明するわけでもないし。説明はされないでしょ
うね、それは狙いじゃないんだから。そこで地元の方と駅の前で温泉につい
てお話を聞かれていましたけど、それもなさないし。そういったことはすべて

しない、と。すべてシオタニさんの個性のままにやっている番組なので、それでいいんだという番組に受け止めました。だからこれ、非常に番組審議会の対象としてはいいのかどうか。裏返せば一番ふさわしい番組なのかもしれませんが、なかなか難しいなという気がしたのが第一印象です。不思議な番組だなと思いました。シオタニさんはそんなに存じ上げなかったんですが、インターネットで調べましたら、この番組そのものな感じの方のようで。それにしても、コーナーで出てきました歌手の方ですね、ギターを弾いて。あの方をあそこに入れるという意味が、さらにわからなかったんですね。どうせであれば、もうシオタニさんの魅力で番組を1本作るのであれば、ああいう方を入れるのはいかがなものかという気もしましたし、その辺は後で教えていただければ有難いんですが。でも、もう7年も続いているということであれば、人気があるということなので、それこそさっきも申し上げたように、シオタニさんの個性で持っているような番組で、それがすべてで。番組審議会の対象としては非常に評価しにくいような、しやすいような番組だなという気がしました。私も、とりとめがつかないんですが、そういった感じがしました。ぶっつけ本番の感覚を出すために、何も下知識を入れないでやっているという感じは、非常にいい印象を受けましたが、インパクトが。シオタニさんの個性にフィットしない方には、なじみにくいのかなという気がしました。それはそれでいいんでしょうね、作っていらっしゃる方は。とりとめがなくすみません。

山田委員長

続きまして吉川さん

吉川委員

私は、拝見したのは初めてでした。2010年からスタートと伺って、当時は随分とがった番組だったんだろうなと思いました。皆さんがおっしゃっていることですが、その場のダラダラ感というか、変に加工していない、作りっぱなし感というか。カメラの、プロデューサーの方がその方だったんだとさっきわかった

んですが、シオタニさんが相手をしている方が、変にオンマイクではなくて、時に、音量も音声も聞きにくいぐらいの感じで相手をされていて、カメラを持ったまま録りっぱなしという感じが、当時はすごく新鮮だったんだろうなと思いました。ただ割と、今こういうのを他局もまねされて増えてきてしまっているので、その新鮮味も薄れつつあるのかなと思いました。シオタニさんの絵とか、詩、音楽は、私は嫌いじゃないので、見ていてすごく好きなんですけど、ただ番組の内容としては、他の委員の方もおっしゃっていましたが、風景がすごく暗いなど。あと敢えて「食べものにまつわる地名の旅」と題打ったからには、そして観光地じゃなくていいとおっしゃるからには、もっとなぜオレンジヒルに寄ってくれなかったんだろうと。オレンジの木を遠くからパンしてそれで終わりというんじゃなくて、オレンジの木がなっているところに行って、場合によってはそれがオレンジだということを確認するべく、オレンジを撮らせてもらってくるのか、「なんでオレンジヒルなんて名前にしたの？」と、知っている人を探し回るとか。探し回れなくても聞いてみるとか。なんか畑で大根の話に飛んじゃって、しかもオレンジヒルよりも東海大と鶴巻温泉という、わりとベタなところがメインになっちゃったというのも、なにかありがちな方に走っちゃった感があって。しかも非常に特徴的だなと思ったのは、さっき林委員もおっしゃっていましたが、東海大のことを散々言うておきながら、大学の入り口まで行ったら、中を見ずに、それで「じゃあ、もろどうかね」と。それからカメラの方でも、シオタニさんが「何かがあるから、ほら」といって、家の壁面の絵を指さされたシーンがあったんですが、それもカメラにはちょっと一瞬映りかけたんですが、視聴者がそれが何か分かる前に、もうフレームアウトしちゃってというふうに、わりと視聴者が置いてけぼり感がある番組だなという印象を受けました。あと、やはり私も中尾諭介さん、シオタニさんがレコードジャケットを描いているということ

は知っているんですが、毎回あの番組に出て来るのかしらと。そして毎回いろんな地名の歌を歌うのかしらというところはちょっと質問してみたいと思っていて。私もなくてもよかったかなという感じがしていました。この辺は東海大や鶴巻温泉とか、そういう割と知られているものしかないの？と思って、チラチラッと調べてみたら、軽便道という軽い便の道と書くところがあるというのを私はネットで見て。シオタニさんふうには、そっちの方とか、そういう面白地名とか、そういう方に、もしオレンジヒルだけじゃもたないなら、近くにそういうところもあつたらうに、なんで東海大前のダイコンに行っちゃったりとか、鶴巻温泉の陣屋さんの名前だけ映して、看板だけですぐ終わっちゃうとか。なんでそういうふうになっちゃったのかなというのが残念というか、もし意図があるなら教えてもらいたいな、というふうに思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。では二宮さん。

二宮委員

「食べものにまつわる旅」というタイトルで、どういう食べ物かと思ったんですが、見終わった全体の印象からいくと、皆さんの言うように。先ほどそこが観光地ではないと言われましたが、旅に誘うというコンセプトというのはあんまり感じないなと。陣屋の紹介もなくて。それから地域紹介番組かなと思ったけれど、それはちょっと違和感をもって。それから自分は、秦野のどの辺を歩いているんだろうかと全然わからなくて。駅のこの辺なのかな、と推定するんですがわかりませんでした。多分秦野の知識がない人は見ても全然わからないんだろうなと。そういう意味で全体的にはユニークな番組なんだろうね、という印象を持ちました。7年目なので、キンシオさんの、あの人のキャラクターで番組が持っているんだなと。特に漫画を描く過程が結構あって、ああいうのを見ていると面白いですし。キャラクターの面では、秦野すごいね、というフレーズを多用しているんですけど、どこがすごいんだろうなという感じで、も

うちちょっと表現力を使った方がいいのかなと。後は、ギター青年、突然出てきましたが、ユーモアもあって、自分は笑いました。結構面白かったです。そんな感じです。

山田委員長

ありがとうございました。では白石さん、お願いします。

白石委員

キンシオさんは5年ぐらい前ですかね、収穫祭でコーナーを持っていました。ずっと行列になっていました。「この行列はなんなんだ」と思って、ずっとたどっていくとキンシオさんのスケッチでした。大体お父さん、お母さん、ご婦人が多いんですけど、子どもも。キンシオさんはやっぱりすごいなと、あれだけ行列が作れるような「キンシオ」なんだと。そういうイメージでこのテレビを見たんですが、その良さが出ていないかなと思いました。秦野は鶴巻温泉の周辺や東海大のところ、小田急の秦野の駅、秦野はガス灯があって、なかなかいい町なんですね。南傾斜のあたたかい土地のようですから、穏やかな人が多くて落花生が有名な土地です。ただ友達もいるんですが、「はたの」というと「はたのじゃない、はだのだ」と言われまして、こだわっていますね。そうした中で歌の中で「だ」を強調していましたが、歌がいいかどうかは別にして、秦野に住んでいる方は「はたの」と言われたら屈辱的に感じるのではないかと。東海大前駅の前が大根駅だということで、大根(おおね)と大根をひっかけて話していましたが、もう少しわしく探ったらどうかなと思いました。それから、せっかく鶴巻温泉まで行きましたので、もうちょっと深く紹介した方がいいかなと。それからおばあちゃんはいいい人でしたね。解説もなかなか的を射て説明されていましたが。アップが急に振られるんですが、撮り切れなかったかもしれませんが、おばさんなんかをアップして放映していただければよかったです。大根農家の人たちも、もう少しアップして表現したらよかったですのではないかなと思ったところです。

山田委員長

ありがとうございました。では布施さんお願いします。

布施副委員長

実際私はコメントできない。必ずどういう番組でも、それなりに制作者が準備して、細かいところまで考えるかどうかは別として、作っていく創造性というのが、テレビの番組ではどんな番組でもあると思っていた。だから見ても、「あ、これは私はこう思っていたけど、制作者の側はこう思っていたんだ」と。結構それが生きていいな、という印象を持つ場合もあるんですね。どちらかというと、これは、私は予想していなかったけど、いい印象を持った。秦野とか鶴巻温泉。昔友達がいってよく行っていたんだけど、そういうことがあったからかもしれないけど、いい印象を持ちました。逆に、そういうのが経験ない人、秦野も東海大学も関係ないし、「鶴巻温泉ってどこの温泉？」っていう人がこれを見るときに、どういうイメージを持つのかなど。私は知っていたから、思い出もあるし、そういうものをアピールしたんだけど、そうじゃないと、「なんの番組？」って。「この番組の意図は、本質的にどこにあったの？」と。ただ行き当たりばったりで、行って、ぼやっとぼけっと山から向こうを見て、「あ、見えるね」という。そんな光景あるいは町なんか日本中どこにもあって。別に秦野や鶴巻温泉じゃなくてもいいんじゃないの。そうじゃなくて、何か明確じゃなくても、意図とか哲学とか、そういうものがないと、この長い時間を、視聴者に見てくださいっていうことを言う資格があるのかと思うんです。若干、私個人としては非常に面白いけど、だけどこんなの全然関係ない人は、見なきゃならないと仮にするならば、「これは辛いぞ」と、個人的には思いました。だからそういう制作者の哲学は、出なくてもどこかであって、全体としてはにじみ出てくる。何か得るものがあるとか、楽しかったとか。それも何もなくて司会者のシオタニさんのイメージだけで、それだけでお付き合いするのは、私は辛かったです。シオタニさんという方は私も知らないし。この人がどういう意図でもって、で、どうい

ことを考えているかが全くわからない状況では、最後にやはりすごく、どこか抜けている番組だというふうに、思わざるを得なかった。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。最初にいつ頃の撮影かということと、時間帯を伺ったんですが、4月の上旬の撮影で、時間帯も午前11時から夕方4時ごろまでと。それにしても、これはさきほど伊藤さんがおっしゃっていましたが、ちょっとうら淋しいという印象を受けましたですね。それと番組中、キンシオさんがカメラ目線ではなく、いわゆるディレクター目線っていうんですか、そっちの方ばかりを向いていて、それが気になりました。重富さんから「二人だけの撮影だ」ということで、それはある程度納得がいきましたが。たしかに最近こういう、いわゆる監督と出演者、ディレクターと出演者という二人だけでやるケースというのは多いように見受けられますけど、これは間違うと、なにか制作者側の独りよがり、出演者の独りよがりというふうに映ってしまうんじゃないかという危惧を感じました。それとやはり秦野という町を歩くのであれば、田んぼの中の人と話すのも、もうちょっと引き寄せて話すとか、いろいろ制作者側の哲学があるとしても、視聴者はそこまでは踏み込んで考えないと思うんですね。映っている画面だけで判断していく。で、秦野という町がどういう町か。それは町を歩く人に声を掛けたりインタビューをしたりして、やっとなんか浮彫にされるものだと思うんです。今回の番組の中では、ほとんど人が通っていなかったということが印象に残っていて。それは秦野のイメージにもつながるんじゃないかなと思いました。それと、これは同じ土俵上では語れませんが、どうしてもイラストを描いて旅をするということでは、蛭子能収さんのことを思い出しますが、あの人も絵を描きながら旅をする。ところがあの人の場合は非常にとぼけた天然キャラというか、そういう味わいがあるそれが人気の一つになっていますが、先ほど重富さんが、キンシオさんの個性をということといっ

ていましたが、私は残念ながら、キンシオさんからは個性がそれほど感じられなかったんですね。コメントにしても、小田急が走っているのに、「あれ、速いんですね」という、もうちょっと気の利いたというか、人生の普遍的な言葉を出してほしいなという、そんな感じもしました。それと、やはりこれもみなさんおっしゃっていましたが、撮影の現場に行くと、もうちょっと一歩踏み込めばそれなりの番組の深さがあったのかなという感じがいたします。7年間もやっているのに、それなりの魅力というか、視聴者に愛される理由があるのかと思うんですが、それがこの番組を見ても伝わってこないというのが、正直な私の感想です。以上です。あと言い足りなかったこと、言い忘れたことはありませんか。

吉川委員

シオタニさんのコメントの中で、ちょっと残念だなというところが、富良野や美瑛にたとえたところもあったんですが、全然スケール感が、本当に富良野とか美瑛を知っている人にとっては、地平線のスケール違う中で、ちょっと一面広がっているところとか、そういうものにたとえたりとか、表現自体がちょっと残念だったなというのがありました。山も上がりきらないうちに帰ってきちゃう、に象徴されるように、全部なんか途中でやめてしまう感が、私はやはり残念だったなと思います。以上です。

山田委員長

他にございませんか。ないようでしたら、いろいろ意見ができましたので、重富さんにしては反論もしたいかと思っておりますので、どうぞ質問も含めてお願いいたします。

重富プロデューサー

特に反論はないんですが、この番組はこの回だけをご覧になられた感じですか。他のレギュラーをやっているものは。

伊藤委員

銭湯のとか。

重富プロデューサー

銭湯。それは別の。いや、「キンシオ」のオレンジヒルじゃないものは。

伊藤委員 それ以外ではあまり。

山田委員長 先ほどお話ししましたように、以前ここで「キンシオ」さんの番組の視聴合評があったんですが、それはかなり前になりましたが、川崎か何かやったんですね。川崎をやったときも、今回の番組を見てちょっと思い出したんですが、やはりちょっと独りよがりの感じがありました。その時と、番組審議会のメンバーがだいぶ入れ替わっていますけれども、若干マイナスのイメージを持った。

重富プロデューサー その回も僕、出ていたんですけど。逆に言いますけど、この番組は毎週やっているものなんですけど、審議をされるときにこの回だけを見るのか、それともレギュラーである程度何回か見られるのかというのがだいぶあって。言ってみればこのオレンジヒルの回は、非常に地味な回なんですよ。回によってばらつきもあって、キンさん自体が旅人でもあるので、そこの地名に思い入れがあったらいっぱい語ったりとか、あとは町の人とかも仕込が全くないので、町の人キャラによって、話が盛り上がったりとか。ロケハンもしないので、そこに町の人がいるのかどうなのかという部分も、賭けの部分があって。今回のオレンジヒルに関しては、町の人がほとんどいなかったんですね。さっき「町の人に、もっとカメラを寄った方がいい」という話があったんですが、これだけやってくるとわかるのは、突然カメラを向けるとダメな人もいますね。だから僕らは様子を見ながら、キンさんが話しかけていて、その様子を見ながら、「今いけるな」というところで完全に寄っていくんですね。この回に関してはちょっとそれが曖昧なグレーな感じだったので。「この人は完全に撮っちゃいけない」という部分もあったりとか、ある意味駆け引きというか、勝負もあって。それが仕込みのない番組をやる上でのKY的な部分、テレビとして見せない部分を、僕らは気を遣ってやっています。この回に関してはそういった意味で、まず町の人もありいなかったという地味感もあったりとか、季節的にも、天気

もすごい曇りだというのもあったりとか。あとこのダイジェストが途中で切られていますので、山もちゃんと登っていますし、山頂まで行ってますし。

吉川委員 でも「そろそろもういいかな」といって降りてきたと思うんですけど。

重富プロデューサー いや、それは行きました。ご覧になりましたか。

吉川委員 見ましたよ。

伊藤委員 山頂にお堂みたいな小さいのがあって、その周辺を回ったときに「そろそろいいか」ということで終わったということで、どこが頂上なのかということが、正直、展開の中でわからなかったんです。

重富プロデューサー それを、たとえば芸人さんが出て、「わあ、すごい頂上ですね、すごいですね」と言ったりとか、あと旅館に行って「この旅館すばらしいですね」と言って、いろいろ紹介するじゃないですか、旅番組は。でもそれは他の番組でもやっているものなんですけど、これはあくまでキンさんの目線で町の印象とか、そういうことを語っていくのがメインでもあって。まったく野放しにする部分と、ある意味こちらでコントロールする部分というところの駆け引きというか。この辺の微妙な勝負というか、そういうのもあったりするので。

林委員 さっきも申し上げたけど、あまりこういう番組で、ねらいとか主旨とかを全面に押し出す番組じゃないような気がしたんですよ。それにしても、それはオブラートにしても、番組のねらいっていうのがあるわけですよ。そのねらいっていうのは何なんですか。僕は彼の個性によって成り立っている番組だというのはわかりますけど、それでもねらいはあるわけでしょう。

重富プロデューサー ねらいは、この視聴者の人と、一緒に旅をする気分を味わってもらおうというところは、一つのねらいでもあります。

林委員 さっき、「この回は非常に地味だった」とおっしゃったけど、一緒に旅するというのは、「俺も行ってみたいな」というのが少しでも起きれば、多少は成功した

かなということになると思うんだけど、ちょっと秦野に行ってみようかなという気は。

重富プロデューサー 結構勝負もあって、僕も撮っていて「やばいな」という回もあつたりもするんです。一番危険なのは、キンさんが何もしゃべらなくなって、見たものをしゃべってしまうことが一番危険で。「あ、オレンジだ」と。見たらわかるじゃないですか。そういうときは結構危険で。僕らは長年やっていてわかるんですが。その温度感のばらつきは正直あつたりするんですが。その中でもある程度魅力をお互いキンさんと二人で見つけようとしています。今回のルートがオレンジヒルという非常に住宅街のところで、そこからスタートしてどういう魅力を見つけていくかというところを、僕らは必死で探すんですけど、そこで地図も見ないで行く旅なので。

林委員 陣屋についてちょっとおっしゃっていましたが、陣屋の中にまで入っていく必要はないと思うんですよ、私も。でも陣屋と言え、知っている人は知っているところなんで。でも彼は知らなかったんですよ、それは。彼は「変わった名前だな、なんでこういう名前なんだろう」って。それを口にすることもなさらなかった気がしますよね。なんか「同じクルーがいるね」と。そこも自然といえば自然なんです。やはり陣屋の前まで来たら「あれ、なんだろう」というのが普通の。

重富プロデューサー それは普通の旅番組ですよ。

林委員 いや、「陣屋ってなんだろう」って口に出して。だったら、いかに人がいないって言っても、「陣屋って変わった名前ですよ」ぐらい、聞きませんか、という気がしたんですが。それがシオタニさんの個性なんだから知らないというのなら、そうでしょうが。

重富プロデューサー でもその時点で仕込みになってしまいますよね。「キンさん、ちょっと待って。

陣屋ってすごいんですよ」と。「もう一回戻ってコメントしてもらっていいですか」と。

林委員 いや、それはする必要はないんだけど。最初に行ったときに、陣屋という旅館の前にあるでしょう、その時に彼の口から「ずいぶんひなびた温泉にしては格式のある旅館だよ」という話をしていけば、シオタニさんもそんな感じをされているのかな、と普通思いますよね、見た人は。

重富プロデューサー そのコメントが出れば、ですよ。

林委員 出ればね。出なかったの。

重富プロデューサー 多分、地元というか、神奈川県なので余計にそうなんだと思います。神奈川県だけじゃなくて日本全国に行っていて。

林委員 でも陣屋って知っていますよ。

重富プロデューサー それは地元だからですよ。

林委員 そうかな。それは別にいいんだけど。そこがちょっと。

重富プロデューサー ロケの時に「ここをやった方がいいのにな」と、僕も撮りながら思う時もありますけど、言わないです。

林委員 それはしなくてもいいんです。たまたまであつても通ったから、通った以上はシオタニさんも、普通にその辺のどうでもいい旅館とは見たとき違うわけですから、何か反応はないのかなという気が、多少なりともしたんですよ。

熊谷コンテンツ局長 逆に、7年間続いているという話をしている中で、白石さんが「収穫祭で何でもこんなに人が集まっているんだ」というのが、まさにそう。もしかしたら重富の方向性とちょっと違うのかもしれないんですが、若干物足りない部分があるんです、番組の中で。それを逆にその場所に行ってみようという、癒しを求めているファンの方がたくさんいらっちゃって。これに対して不思議な魅力があつて。実は僕も最初にキンさんにお会いしたときに「なんだ、この人は」とい

うのが、やはり正直なところで。やはり番組を見たときになかなか理解されにくい番組というのは確かだと思います。重富がいったように、それを積み重ねることによってやはりファンが毎年増えているんですよ。これは、やはりこの物足りなさが、「自分が実際行って確かめてみよう」とか。あとはキンさんの魅力、絵の魅力もそうなんです。最初に僕らが起用したときは、失礼なんです、全く知名度もなかった部分で、番組で正直な話、重富と二人でキンさんが盛り上がってきたというのは事実なんです。中には市営バスの絵を描いたり。絵の中身についても賛否両論あると思うんですけど、キンさんの魅力、不思議な個性の部分と、番組のゆるさ、ちょっと欠けている部分、そして重富のなんとなくゆるい感じのキンさんとのトーク。これは分析にならないかもしれませんが、これはうまくマッチしたのかなと。必ずメールを見ると、癒しという言葉もいろいろ出て来ていますが、「深夜に見るには非常にふさわしい」「ぼーっとして見れます」と。且つお年を召された夫婦の方が散歩がてらに、「行ってみようか」というところの内容で話題になったのではないかと考えて。それと、うちの局もあまり数字も出なくて話題にもならない番組をずっと続けるわけにもいかないで、そこが7年間続いた魅力ではあると思うんですね。DVDも売れているということです。1回や数回、ご覧になっている方も、ずっと見ていただくと、長い目で見ると「あ、そういうことね」ということが、一つでも多分わかっていただけるような番組なんだろうなと。だから逆にこういうことも話して、この番組審議会には私も過去に出させていただきましたが、やはり数回見るとなかなか魅力が伝わらない番組ではあるんですが、それは重々僕らもわかっています。重富もなかなか説明しきれないところもあると思うんですが、その阿吽の呼吸が魅力になっている、あと横浜でもイベントをすると300人から1,000人集まる。その部分が徐々に増えてきて数字も表れてい

るところが、なんとなく惹きこまれるという番組なんだなというところのご理解だけは、是非していただきたいと思います。

山田委員長 それでは長い目で見ましょう。

重富プロデューサー 実情は、「ゆるい、ゆるい」と言っていただけでしたが、それは一番いいことなんです。実情は全くゆるくないですから。カメラを持って2万歩歩きますし、台本があって、段取り良く進まない部分の、ゆるくないさがあります。初対面の人と撮影交渉をやって。撮った後の編集も、自由にしゃべられているので、30分の枠の中でどれだけその魅力を言葉として入れられるのかというところが勝負だったりするので。ほんとうに、ゆるいと言っていただいたことは非常にうれしいんですが、そうじゃないというところも。ちゃんとテレビを見ていただけるのであれば、感じていただきたい。

白石委員 オレンジから、ここには陣屋があると。行ったことない人もいっぱいいる。この番組の後半は「たぶん陣屋を紹介してくれるんじゃないか」と思ったんですが。ところが行くと、「猫のひたい」がバッティングしたわけでしょ、それで遠慮したということはあるんですか。

重富プロデューサー 「猫ひた」とバッティングしたのは陣屋じゃなくて、その手前の工房です。バッティングから遠慮したということは全然ないので。偶然です。

白石委員 私はなぜ寄らなかつたのかの、その原因にバッティングがあつたのかなと思つて。それは違うのね。

重富プロデューサー 違います。あれは「猫ひた」の部分のカットしても良かったんですが、僕は仲間意識として、「猫ひた」も盛り上げたいなというのもあつて、というだけなんです。

白石委員 わかりました。

重富プロデューサー 歌のところがありました。今回歌だけみていると思いますが、ほとんど落語

家がしゃべっていますから。あのコーナーは最近始まった2分の歌のコーナーで、実際は「土地こぼなし」という形で、立川晴の輔さんという志の輔さんの一番弟子の真打の方が、2分間、その土地の説明をしているんです。

吉川委員 今回は何でそうじゃなかったんですか。

重富プロデューサー スケジュールの問題と、あとはバリエーションも僕らは増やしていかなきゃいけないので。落語だけに特化しないで、毎回その辺のコーナーチェンジをしていこうかという試行錯誤はしています。歌っている部分をいつまでかいたんですが、「落語、いつもあるのにね」というのが一言もなかったのがちょっと残念でした。

林委員 水かきをしているというのは皆さんお分かりになっていると思うんです、番組を作る上で。それがゆったりと見える、ゆるい番組だなという、そういうことだと思うんです。皆さん方も水面下で何もやっていない、のんびりやっているとかは思っていないと思いますよ。

重富プロデューサー 番組においては、言っていたいてそれはいいかなと思います。

吉川委員 ちなみに視聴率の推移はどんな感じなんですか。

重富プロデューサー 大体3から5を行ったり来たりです。

近藤編成部長 数字的には2016年下半期で2.9%です。

吉川委員 いや、7年間の中で、こう右肩上がりにどんどん、こう。

近藤編成部長 右肩上がりですね。ここ最近でも。

熊谷コンテンツ局長 「キンシオ」が話題になっているというのは他局さんにも知れていて、番組購入したいというお声もかけていただいて。それで重富は、買っていただいている局を敢えて回るようにしているんですね。栃木さんだったり、いろいろなところを回ったりしながら。そこはお礼参りではないんですが、そこも気にしているよという気遣いもしているというところで。他局さんが「面白いよね」と取り

上げてくれる番組ではあるので。それなりの、というか僕らとしてはかなりの反応がこの7年間で出て来ているなど。積み上げることによって出て来ている。ただおっしゃるとおり1回、数回見ただけではなかなかご理解していただきにくいだらうなどというのは、非常によくわかります。

山田委員長 はい、そういうことで、我々番組審議委員側にも、今日は大きな宿題を与えられたと。視聴合評を言うんだったら、その前後も見てと。それでは今日は時間も押し迫ってきましたので。

近藤編成部長 今回5月1日を指定したのは事務局でしたので、その時は秦野市がどのぐらいの撮れ高かというのはまだわからず、それは本当にこちら側としても反省すべき点です。あと4月21日に「キンシオ」のDVD「20号に行く」なんですけど、連休前の発売で、連休内にメールを100何十件いただきましたが、「連休を利用して20号を旅している」という方が4～5件いらっしゃったというところで、キンシオさんの旅を皆さん楽しみにしていっていらっしゃるということは、事務局からも説明させていただきます。

山田委員長 それでは、3番目、その他報告事項に移りたいと思います。では視聴者対応からお願いします。

近藤編成部長 視聴者対応はこちらです。4月15日から5月12日の視聴者対応です。電子メールは6,510通、電話は565件です。お問合せ内容の抜粋ですが、いつもの番組が並んでいますが、一番最後の「その他」のところに、「tvk開局45周年という事で、どんな特別番組や放送体制を敷くか興味深く拝見しておりますが、今のところ少なくとも「やるじゃんtvk」と呼べるような内容は見当たりません。45周年という歴史を持つローカル局は、県民や市民に教養・教育的見地からの番組製作を行い、放送と報道を介して貢献していくべきではないでしょうか？テレビ神奈川を名乗るのですから、もっと神奈川を掘り下げる

番組を製作するべきでは？」という、ありがたい貴重なご意見をいただいています。それに応えるような編成、放送をこの45周年から50周年に向けてやっていきたいと思った次第でございます。お問合せ件数やグラフはこちらにございますのでご参照ください。以上になります。

山田委員長 視聴者対応について、事務局から説明がありました。これについて皆さんからご意見ご質問等がありますか。ないようでしたら、前回の議事報告をお願いいたします。

議 事 報 告

山田委員長 それでは、本日の議題はこれですべて終了しましたが、何か言い忘れたこと言い足りないことがございましたら。よろしいですか。では、事務局から。

近藤編成部長 次回は、6月20日火曜日に第376回目の放送番組審議会となります。次回の視聴合評番組は「KICK OFF F・Marinos」になります。神奈川ダービーの模様を中心に6月9日にオンエアすると聞いておりますので、ご覧いただければと思います。以上になります。

山田委員長 それでは、今日は「キンシオ」さんの件で活発な意見が交換されまして、非常に良い番組審議会だったのではと。では、今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。